

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里 (有明海)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年9月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を田園に囲まれ、季節を感じながら静かでのんびりと過ごしていただける環境です。利用者がどのような生活を望まれているのか、寄り添いながら、自分らしい生活が出来るように心がけ、共に生活しています。ご家族の面会も多く、利用者とのつながりを大切にされています。また職員は、ご家族と話しやすい雰囲気作りを心がけ、気さくに会話が出来るようにしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所時より広い玄関は常にオープンに開放され、訪れるものを快く迎え入れていた。たわわに実った稲穂が散歩中の入居者の心を癒し、自然環境豊かな地でゆくりとした日々を送っている。本年度は法人行事として定着している祭りにホーム職員も積極的に企画参加し、職員間の結束を固め準備が進められている。「ざっくばらん会」と命名した運営推進会議も定期開催が継続されており、参加者から出た貴重な意見はケアの細部までを見直す機会となり入居者へのより良い支援の為に大いに活用されている。法人内に地域の人々の福祉相談に応じるサポートセンターを開設し、何時でも訪れることの出来る相談所として地域貢献にも尽力し、法人と共に地域で果たすべき役割は年々大きなものになっている。今後のホーム運営に期待したい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、より良いケアが提供できるように管理者・職員間で常に話し合いながら、サービスの質の向上を目指している	開所時からの基本理念をケアの規範として日々の支援に当たっている。管理者は職員採用時に五項目の理念について触れ、ホームの目指す支援のあり方について話をしている。現在、ホームを取り巻きさまざまな状況を踏まえ理念の見直しを検討したいとしている。	開所当時からの理念であるが、数年を経て現在のホームの状況や地域との関わりの変化に伴い、他方向から見た見直しも必要であると管理者は語っている。施設長や職員と時間をかけ取り組む事で、新たな着眼点を見出しチームケアの柱となる理念が作られることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が少ないので、町の文化祭や敬老会等には積極的に参加し、地域の人達との交流を心がけている。	入居者は日々の散歩で畑作業中の人々と気軽に挨拶を交わし、ホーム周りの清掃活動に職員と共に参加している。近隣に民家が少なく日常的な交流は望めないが、地域に出かけることで知人や馴染みの人々との再会に繋がるとして、町の文化祭や敬老会などの行事に積極的に参加している。又、法人内にサポートセンターを開設し、人々の福祉の相談窓口として地域貢献にも尽力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来館された方や面会に来られた家族等には認知症の症状、対応の方法等を詳しく説明して理解を得てもらえるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の職員会議のまとめを配布し、意見やアドバイスをもらっている。またそれを職員会議で報告し、サービスの向上に繋げている	「ざっくばらん会」とネーミングされた推進会議はその名の通り、参加者に気軽に来所してもらい、忌憚のない意見を出してもらうことを目的としている。地域代表者、包括、家族代表が参加し入居者の状況や行事、職員研修の内容や人事についての報告後、参加者から事故対応や入浴、口腔ケア、入居者の服装など日々のケアについて質問があがっている。その場で支援内容を説明しながら検討事項については次回会議で改善策を報告し透明性を図っている。	参加者から出た様々な意見や要望に早急に対応し、ケアについては支援方法の見直しや継続の重要性を報告しており、今後も参加者の意見が反映される場となることに期待したい。併せて参加できなかった家族への議事録の開示方法も検討頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事があったら電話で聞いたり相談したりしている。役場が近いので出かけて行って相談する事もある	推進会議に参加する包括職員とは制度上の話を聞いたり、相談に応じてもらう関係にあり、役所への書類提出時にも質問や相談に応じてもらうなど良好な関係を築いている。認定調査には職員が立ち会い、場合によっては家族も同席している。管理者は行政主催のキャラバンメイトの講習に毎月参加し情報交換の場としている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での勉強会や外部研修会で身体拘束をしないケアを学び実践に繋げている。日中は3ヶ所の出入り口を解放し、出入りは自由に出来るようにしている	法人の「虐待拘束委員会」に参加した担当職員により伝達講習を実施している。グループホーム連絡協議会の研修には毎月半数近くの職員が参加するなど意欲的であり、拘束に対する認識を深め統一したケアに努めている。管理者は無意識のうちにスピーチロックに繋がることあるとして、その都度職員に伝え、外出傾向の入居者へも動きを静止することなく一緒に外に出よう申し合わせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会や外部研修会で虐待をしないケアを学び実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が職員会議で報告しているが、内容が難しい為職員全員が理解しているとは言い難い。今後も勉強会を行って全員が理解し活用できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の内容を詳しく説明している。家族が不明な点に対しても丁寧に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には家族と会話をするように心がけており、要望等があれば管理者と職員で話し合って要望に応えるようにしている	入居者の中には自らはっきりとした意思を伝える方も居られるが、意思表示の困難な方へは、日頃の会話や表情から思いを汲み取っている。家族の意向は推進会議や来所時に聞き取り出された意見は職員で共有し対応している。	今後も日々の生活の中から入居者の希望を引き出し、衣類の選択などに自己決定の場を設けるなど個々に応じた支援を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された用件は施設長に報告し、より良い運営が出来るように努めている	ケア会議を兼ねた月一度の職員会議で意見を出し合い、物品購入については施設長へ声をあげている。本年度、清拭用のタオルを保管するキャビネットを職員意見により購入している。管理者は日頃より職員が自由に意見や提案を出せる機会を大切にしており、職員意見をケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与に関しては、自己評価、管理者評価、代表者評価を行うシステムになった。各自が向上心を持って働きがいのある職場になりつつある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が積極的に研修会に参加し、研修の内容を職員間で共有し、より良いケアが実践できるように努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のグループホーム連絡会の研修会や年2回の懇親会に参加し、他事業所の職員と意見交換し、ケアの質が向上するように努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を良く聞く事で、本人がどのような困りごとを持っているのか、どのような要望を持っているのか、どのような不安を抱えているのかを知り、安心して生活できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどのような事で困っているのか、どのような不安や要望があるのかを良く聞く事で家族との信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を良く聞く事によって何を必要としているのか、訴えを汲み取り適切なサービスが提供できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念にあるように「共に泣き笑いする」「利用者の家族」をモットーに家庭的な雰囲気でも過ごせるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時、現況を報告し、常に家族にも本人の状態が分かるようにしている。面会が難しい家族には電話で状況を伝えたりしている。本人と家族のきずなを大切に支えていきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会があった場合は同席してどのような付き合いをされていたのか聞き出し、今後の会話に繋げていくようにしている。	馴染みの人々との出会いを求め地域行事へ参加し、地域資源を利用した花見学を実施している。家族により床屋や外食、お盆の里帰り、米寿祝いの外泊などが支援されている。外出や外泊が困難な家族も面会により入居者との関係を保ち、安定した日々を過ごすことに努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに会話は無くても、隣に座っているだけで安心した表情が見受けられる人同士を見極めてソファ席等を決めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人死亡後も家庭訪問し、家族が気落ちされないよう支援した		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる利用者の要望は出来る限り実現できるように努力している。意思表示の難しい方が多いので、本人の言葉や表情から、希望や意向を汲み取ることが出来るように努力している	入居者の思いを引き出し職員間で共有しながらプランに反映している。家族や親戚の来所時には職員が対応し、家族の意向や本人を代弁した言葉や思いを受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が話せる範囲で、家族が知り得ている範囲で今までの生活歴を把握できるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人をよく観察することで本人の持てる力、心身状態を把握する事に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護者中心の介護計画になりやすいので、利用者の立場に立って「もし自分が介護されるならどのようにしてもらいたいか」を中心に介護計画を立てるようにしている。状況変化があった場合は介護計画の見直しを行っている	入居者の担当職員を決めているが、担当者会議には全職員が参加して入居者の現状を共有し支援内容を見極めている。三ヶ月後のモニタリングで評価し必要に応じて見直し、現状に即したプランにより支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアを実践し、気づき等を個別記録に記入している。しかし気づきや工夫等細かな点での記入が不十分な時があるので、全てを記入できるように努力したい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望があった事に対しては柔軟に対応できるよう心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや病院、役場等必要な資源との繋がりは密に行っているが、他の資源との繋がりは希薄である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医にするか、協力医にするか決めてもらっている。眼科以外は同様に決めてもらっている	入居時にこれまでのかかりつけ医を継続して支援する事を伝えている。状況によっては家族が対応し同行する事もあるが、基本的にホームで受診を支援している。結果や日頃の健康状態は来訪時や電話で報告を行い家族の安心に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に気付いた時は、隣接する特養の看護師に相談したり、直接かかりつけ医に電話して相談に乗ってもらったり、指示を仰いだり、受診・往診をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には1日おきに馴染みの職員が病院訪問し安心して入院が続けられるようにしている。またストレスがたまらないように、早く退院が出来るようにDrやNsと情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を確認できない人に対しては、家族の訪問時等に終末期のあり方について話し合いをしている	重度化した場合や終末期支援について、本人や家族の意向を確認し、ホームで出来る支援を説明し取り組んでいる。職員は共に過ごした入居者を最後まで支援したい気持ちもあり、今後の課題としてどこまで支援するかホームの方針を確立する事や、方針によって看護医療体制や研修会の充実等を管理者は語っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時にあわてず確実に対応できるとは限らないので、あわてず確実に対応できるまで訓練していかなければならない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間の火災に対する避難訓練を職員全員で行っている。地震や水害に対しては避難場所等の確認は行っているが、訓練は行っていない	全職員が参加し昼・夜間の火災避難訓練を実施している。又、昨年の大震災発生から、当ホームも海に近い環境にある事から地震・水害に対しての避難場所や手段を含めたマニュアルの見直しが行なわれている。火災対策としては日々安全点検を記録に残し意識付けが図られている。	マニュアルの見直し等状況に応じた災害対策が進められており、今後は自然災害についての机上訓練や備蓄の準備に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーや尊厳を守るように学習し、常に心がけて対応している。しかしうっかりプライバシーを傷つけてしまうような対応をしてしまう事があるので、これからも常に学びプライバシーを守る対応をしていかなければならない	入居者一人ひとりの尊重やプライバシーに配慮した対応について研修会の開催や、代表者・管理者より指導が行なわれている。トイレや入浴介助をはじめ、普段の声かけもプライバシーに配慮しているか日々振り返っている。重要書類は事務所内で保管し、職員にも守秘義務について誓約書を交わしている。	個人情報に関する説明は行なわれているが、再度写真の掲示や掲載等、詳細を記入した文書により家族からの了解を得る事が必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できない利用者にも声掛けして本人の表情などから本人の希望等を読み取ったりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先できるように取り組んでいるが、まだ職員の業務の都合に合わせている事がある。本人の希望に沿った支援が出来るように努力していかなければならない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装は本人に希望を聞いたりしている。入浴時の着替えは本人に選んでもらうように決めているが、意思表示の出来ない人が多い為職員の感覚で決めてしまっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を目で楽しんでもらえるよう、ミキサー食を無くし、刻み食にして食材がわかるようにしている。食後、自分のトレーを運べる人には配膳台まで運んでもらっている	法人栄養士によって二週間分の献立が作成されている。ご飯やお茶をホームで準備し、副食等は隣接した施設厨房で調理された物を提供している。苦手食材の代替えや、ミキサー食ではなくキザミ食で目で楽しめる食事支援、一人ひとりに合った食器や食事量等にも配慮している。入居者は調理に関わる事はないが下膳などできる事を行い、見守りや介助により食事を摂っている。職員は持参した弁当をホールで一緒に食べたり、食事休憩を取っている。	ホーム入居者の好みを法人厨房に伝える機会を設ける事や、職員が一人でも入居者と同じメニューを食べる事で、量や味など思いを共有でき厨房への提案が出来ると思われる。又、入居者のペースで食事支援が行なわれており、流し台の洗いものの時間については検討が必要と思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食器で対応したり、その人に合った食事量を提供している。水分補給の難しい人がいるので、水分の形態を工夫して摂取してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で磨ける人は見守り、磨き残しがあった場合は介助する。その人の能力に応じて指示をしたり、一部介助、全介助とその人に合わせた介助を行っている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導し、昼間は紙オムツをしないようにしている。また本人の動き察知してトイレ誘導している。夜間もトイレでの排泄が可能な人は排泄パターンに合わせてトイレ誘導している	個々の排泄パターンに応じ声かけ・誘導を行なう他、自立の方の継続を支援している。日中はトイレでできるだけ布下着と排泄用品を組み合わせたり、排泄しやすい馴染みの肌着使用等一人ひとりに応じた支援を職員間で検討している。夜間使用する(希望で昼間も使用する方も)ポータブルトイレは毎日洗浄され清潔に保たれている。今年度購入されたおしぼり用保温庫は容量も大きく、小まめな清拭として活用され入居者の清潔保持に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は便通が良いように野菜を多く使っている。水分も摂取量が増えるよう工夫しているが運動量が少ない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は一応決めている。本人の体調が悪かったり拒否があった場合は別の日に入浴してもらっている。風呂好きの人が毎日入浴出来る体制には至っていない	体調を確認しながら基本的に週二回の入浴を支援している。一番風呂の希望に対応したり、拒否の場合はタイミングや言葉かけ、馴染みの職員による対応や、翌日に変更する等個々に応じ支援している。	広い浴室はゆっくり入浴を楽しめる環境であり、今後は季節や希望に応じて入浴回数を増やす事で、更に入浴を楽しめると思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に合わせて休息を取ったりしてもらっている。夜間は本人が希望する時間にベッドへ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の効能を把握できるように努めているが、職員全員が利用者全ての薬を把握できていないので把握できるように努めていかなければならない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に興味があるのか、何が好きなのか等、本人に聞いたり、本人から聞けない時は家族に聞いて本人が楽しく過ごせるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は行っていないが、季節の花を見に行ったり、病院受診の支援を行っている。また家族に外出支援をお願いしている	天候の良い日に近隣を散歩し、花見(桜・紫陽花・梨)や地域の綱引き見学に出かけたり、来訪した子どもみこしの見学や触れ合いは入居者の笑顔を引き出したようだ。又、散髪の為の自宅帰省や外食・米寿祝いなど家族の協力による外出支援も行なわれている。	管理者は今後も神社の祭りなど地域行事への参加を語っている。高齢化やADLの低下は否めないが、身体状況に応じ庭先での外気浴や散歩など身近な環境での外出支援に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持している人は一人。職員同行で買物に行かれる。残高を勘違いされるので明細を職員が付けて本人の残金と併せ、確認してもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅や子供さんの家に電話される利用者がおられるので支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は毎日掃除を行い気持ちよく過ごしてもらっている。食事の為のテーブルやくつろぐためのソファは座りやすいように工夫している。室温もホールの2か所に温度計を設置してエアコンの調整を行っている	田畑に囲まれたホームの環境は季節の移り変わりを目の当たりに感じ取れる。靴の脱ぎ履きがゆっくりと行なえる広い玄関やリビングには、家族や職員が持ち寄った草花・稲穂等が飾られている。中心のリビングから左右に分かれた両ユニットは仕切りもなく、全入居者が日中はテレビを見たり、歌をうたう等ホールのソファや椅子、畳の間で穏やかな時間を一緒に過ごしている。職員は日々の掃除や入居者に応じたテーブル配置、適切な室温管理により、居心地の良い空間に繋げている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの端の方にソファを置いて、一人でゆっくりできるスペースを設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に家具の持ち込みを促しているがほとんどの物が備え付けのクローゼットに入ってしまうので、馴染みの家具の持ち込みは少ない。壁には里で撮った写真等を飾っている	入居時に馴染みの家具等の持ち込みを依頼している。クローゼットが備え付けられており、家具類や馴染み品の持参は少ないが、収納ケースや家族の写真・仏壇を持ち込まれている方もいる。木目が活かされた落ち着いた部屋には、職員によってホームでの写真や書道の作品等が掲示されている。	持ち込みは馴染みの家具だけではなく、思い出や趣味の品等を配置することで、より一人ひとりに応じた居心地の良い空間に繋がると思われる。又、部屋の写真や掲示物等も定期的な見直しや、目隠しの為の張り紙にも職員のアイデアや一工夫に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は自分の足で歩けるように、その人の能力にあった歩行器を使用して移動してもらっている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900722		
法人名	有限会社 やすらぎの里		
事業所名	グループホーム やすらぎの里 (玄海灘)		
所在地	熊本県八代郡氷川町鹿島943番地		
自己評価作成日	平成24年8月31日	評価結果市町村受理日	平成24年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成24年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を田園に囲まれ、季節を感じながら静かでのんびりと過ごしていただける環境です。利用者がどのような生活を望まれているのか、寄り添いながら、自分らしい生活が出来るように心がけ、共に生活しています。ご家族の面会も多く、利用者とのつながりを大切にされています。また職員は、ご家族と話しやすい雰囲気作りを心がけ、気さくに会話が出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、より良いケアが提供できるように管理者・職員間で常に話し合いながら、サービスの質の向上を目指している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流が少ないので、町の文化祭や敬老会等には積極的に参加し、地域の人達との交流を心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来館された方や面会に来られた家族等には認知症の症状、対応の方法等を詳しく説明して理解を得てもらえるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の職員会議のまとめを配布し、意見やアドバイスをもらっている。またそれを職員会議で報告し、サービスの向上に繋げている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事があつたら電話で聞いたり相談したりしている。役場が近いので出かけて行って相談する事もある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での勉強会や外部研修会で身体拘束をしないケアを学び実践に繋げている。日中は3ヶ所の出入り口を解放し、出入りは自由に出来るようにしている		
7		○虐待の防止の徹底			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会や外部研修会で虐待をしないケアを学び実践に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員が職員会議で報告しているが、内容が難しい為職員全員が理解しているとは言い難い。今後も勉強会を行って全員が理解し活用できるようにしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の内容を詳しく説明している。家族が不明な点に対しても丁寧に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には家族と会話をするように心がけており、要望等があれば管理者と職員で話し合って要望に応えるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出された用件は施設長に報告し、より良い運営が出来るように努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与に関しては、自己評価、管理者評価、代表者評価を行うシステムになった。各自が向上心を持って働きがいのある職場になりつつある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が積極的に研修会に参加し、研修の内容を職員間で共有し、より良いケアが実践できるように努力している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のグループホーム連絡会の研修会や年2回の懇親会に参加し、他事業所の職員と意見交換し、ケアの質が向上するように努めている		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話を良く聞く事で、本人がどのような困りごとを持っているのか、どのような要望を持っているのか、どのような不安を抱えているのかを知り、安心して生活できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどのような事で困っているのか、どのような不安や要望があるのかを良く聞く事で家族との信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を良く聞く事によって何を必要としているのか、訴えを汲み取り適切なサービスが提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念にあるように「共に泣き笑いする」「利用者の家族」をモットーに家庭的な雰囲気過ごせるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時、現況を報告し、常に家族にも本人の状態が分かるようにしている。面会が難しい家族には電話で状況を伝えたりしている。本人と家族のきずなを大切に支援していきたい		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会があった場合は同席してどのような付き合いをされていたのか聞き出し、今後の会話に繋げていくようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに会話は無くても、隣に座っているだけで安心した表情が見受けられる人同士を見極めてソファ席等を決めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人死亡後も家庭訪問し、家族が気落ちされないよう支援した		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示できる利用者の要望は出来る限り実現できるように努力している。意思表示の難しい方が多いので、本人の言葉や表情から、希望や意向を汲み取ることが出来るように努力している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が話せる範囲で、家族が知り得ている範囲で今までの生活歴を把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人をよく観察することで本人の持てる力、心身状態を把握する事に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護者中心の介護計画になりやすいので、利用者の立場に立って「もし自分が介護されるならどのようにしてもらいたいか」を中心に介護計画を立てるようにしている。状況変化があった場合は介護計画の見直しを行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいたケアを実践し、気づき等を個別記録に記入している。しかし気づきや工夫等細かな点での記入が不十分な時があるので、全てを記入できるように努力したい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から要望があった事に対しては柔軟に対応できるよう心がけている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターや病院、役場等必要な資源との繋がりは密に行っているが、他の資源との繋がりは希薄である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援			



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に今までのかかりつけ医にするか、協力医にするか決めてもらっている。眼科以外は同様に決めてもらっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化に気付いた時は、隣接する特養の看護師に相談したり、直接かかりつけ医に電話して相談に乗ってもらったり、指示を仰いだり、受診・往診をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には1日おきに馴染みの職員が病院訪問し安心して入院が続けられるようにしている。またストレスがたまらないように、早く退院が出来るようにDrやNsと情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を確認できない人に対しては、家族の訪問時等に終末期のあり方について話し合いをしている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が急変時にあわてず確実に対応できるとは限らないので、あわてず確実に対応できるまで訓練していかなければならない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間の火災に対する避難訓練を職員全員で行っている。地震や水害に対しては避難場所等の確認は行っているが、訓練は行っていない		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーや尊厳を守るように学習し、常に心がけて対応している。しかしうっかりプライバシーを傷つけてしまうような対応をしてしまう事があるので、これからも常に学びプライバシーを守れる対応をしていかなければならない		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示できない利用者にも声掛けして本人の表情などから本人の希望等を読み取ったりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を優先できるように取り組んでいるが、まだ職員の業務の都合に合わせている事がある。本人の希望に沿った支援が出来るように努力していかなければならない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の服装は本人に希望を聞いたりしている。入浴時の着替えは本人に選んでもらうように決めているが、意思表示の出来ない人が多い為職員の感覚で決めてしまっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を目で楽しんでもらえるよう、ミキサー食を無くし、刻み食にして食材がわかるようにしている。食後、自分のトレーを運べる人には配膳台まで運んでもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食器で対応したり、その人に合った食事量を提供している。水分補給の難しい人がいるので、水分の形態を工夫して摂取してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で磨ける人は見守り、磨き残しがあった場合は介助する。その人の能力に応じて指示をしたり、一部介助、全介助とその人に合わせた介助を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導し、昼間は紙オムツをしないようにしている。また本人の動き察知してトイレ誘導している。夜間もトイレでの排泄が可能な人は排泄パターンに合わせてトイレ誘導している		
44		○便秘の予防と対応			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は便通が良いように野菜を多く使っている。水分も摂取量が増えるよう工夫しているが運動量が少ない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は一応決めている。本人の体調が悪かったり拒否があった場合は別の日に入浴してもらっている。風呂好きの人が毎日入浴出来る体制には至っていない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調に合わせて休息を取ったりしてもらっている。夜間は本人が希望する時間にベッドへ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の効能を把握できるように努めているが、職員全員が利用者全ての薬を把握できていないので把握できるように努めていかなければならない		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	何に興味があるのか、何が好きなのか等、本人に聞いたり、本人から聞けない時は家族に聞いて本人が楽しく過ごせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な外出は行っていないが、季節の花を見に行ったり、病院受診の支援を行っている。また家族に外出支援をお願いしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持している人は一人。職員同行で買物に行かれる。残高を勘違いされるので明細を職員が付けて本人の残金と併せ、確認してもらっている		
51		○電話や手紙の支援			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅や子供さんの家に電話される利用者がおられるので支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は毎日掃除を行い気持ち良く過ごしてもらっている。食事の為のテーブルやくつろぐためのソファは座りやすいように工夫している。室温もホールの2か所に温度計を設置してエアコンの調整を行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの端の方にソファを置いて、一人でゆっくりできるスペースを設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に家具の持ち込みを促しているがほとんどの物が備え付けのクローゼットに入ってしまうので、馴染みの家具の持ち込みは少ない。壁には里で撮った写真等を飾っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は自分の足で歩けるように、その人の能力にあった歩行器を使用して移動してもらっている。		